

1 医師の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画（時間外削減目標値：42時間/週→41時間/週）

① 医師と医療関係職種、医療関係職種と事務職員等における役割分担

部署	項目	具体的な取組み内容	評価			備考
			上期	下期	24年度	
看護部	初診時の予診の実施	初診にて来院された患者さんに対して総合受付にて看護師を配置し、診察前に問診を実施することで適切な診療科への案内を行っている。	A			必須
検査室・看護部	静脈採血等の実施	外来診療に必要な検体検査の採血業務を実施している。	A			必須
看護部	入院の説明の実施	入退院支援室を設置し、入院前の準備段階から入院中の生活はもちろんのこと、入院中に行われる治療の説明、早期の退院促進などに向けた働きかけを行っている。	A			必須
看護部	検査手順の説明の実施	検査前の説明を医師だけでなく、検査項目パンフレット等を利用し看護師による説明を行い患者さんの安心・安全・適切な検査が実施できるような環境を整え、身体的・精神的な不安の解消に努めている。	A			必須

② 医師の勤務体制等にかかる取組

総務課	短時間勤務医師の採用	子育て中の医師の負担軽減として、育児短時間勤務を導入している。	A			必須
総務課・地域連携室	非常勤医師の活用	日勤・救急外来・当直における勤務については、院内常勤医の他に他医療機関からの非常勤医を交えてそのローテーションを組むことにより、常勤医の負担を軽減。	A			必須

2 看護職員の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画（時間外削減目標値：41.5時間/週→41時間/週）

① 看護職員の負担の軽減及び処遇の改善に資する体制及び取組内容

部署	項目	具体的な取組み内容	評価			備考
看護部	業務量の調整	時間外が発生しない業務量の調整	A			必須
総務課	短時間正規雇用の看護職員の活用	短時間正規雇用の看護職員の活用	A			必須
総務課	多様な勤務形態の導入	多様な勤務形態の導入	A			必須
総務課	妊娠・子育て中、介護中の看護職員に対する配慮	院内保育所の設置	A			必須
		夜勤の減免制度など	A			必須
看護部	夜勤負担の軽減	夜勤従事者の増員など	A			必須

② 夜間における看護業務の負担軽減に資する業務管理等

看護部	夜間における看護業務の負担軽減に資する業務管理	11時間以上の勤務間隔の確保	A			必須
		正循環の交代周期の確保（3交代又は変則3交代のみ）	A			必須
		みなし看護補助者を除いた看護補助者比率5割以上	A			必須
		看護補助者の夜間配置	A			必須

3 他職種との負担軽減及び処遇改善に資する計画（コメディカル他時間外削減目標値：41.5時間/週→40.5時間/週）

部署 → 関連部署	項目	具体的な取組み内容	評価			備考
総務課	医師・看護師	時間外状況	上期：医師（4.5時間/月） 看護部（1.8時間/月）			任意
看護部	医師	患者へのICの時間調整	現在16時以降のICが多いが、担当医の勤務時間内にICの時間調整を行う。			B
看護部	医師・看護師	Iot（音声自動入力）・生成AIの導入	メーカーの説明会・デモなど実施。			C
施設課	看護部	車椅子・歩行器の点検の効率化	各部門に設置している車椅子・歩行器の点検やメンテナンスを施設課へ移行。			A
看護部（看護補助）	看護部（看護師）	救急センターのリネン交換の効率化	救急センターのリネン交換を看護師から看護補助者へ移行。			A
リハビリ室	看護部	リハビリ患者の送迎の効率化	病棟のリハビリ患者の送迎を看護師からリハビリ担当者へ移行。			C
画像診断室	看護部	造影検査の効率化	造影検査終了後の抜針・止血業務が行える放射線技師の増員。（安全面の考慮から、院内での技術的な確認を前提とする）			A
画像診断室	医師	造影検査の効率化	使用造影剤の選択は、患者の体重や入院外来の別その他の要素から、あらかじめ定めた手順に則り決定し、注入は診療放射線技師が注入器のスイッチを押すことで開始する。			A
画像診断室	医師・看護部	午前中の検査増	画像に関する検査（X線撮影・血管造影等）を午前中に行うことで、残業せず日勤帯で業務を終えることができるように協力する。			B
検査室	医師	超音波検査の効率化	生体検査技師は将来的に全員、学会認定技師が施行し、報告書を作成する体制作り。			A
臨床工学室	医師・看護部	HD時の補助業務	準備、実施中、終了に至るまでの補助業務。			A
薬剤部	医師	抗がん剤システムの運用開始	抗がん剤システム運用開始し、医師の入力時間短縮。			A
薬剤部	医師	1F調剤室業務の効率化	医師の問合せについて、待ち時間短縮に努める。			B
薬剤部	医師・看護部	病棟薬剤業務の効率化	HCU・SCU病棟に担当薬剤師を配置し、持参薬の確認・情報提供の実施。			A
システム課	全医療職	電子カルテの操作の効率化	電子カルテの操作の簡潔化（文例登録、セット登録で、入院や検査オーダーのセット化など）			B
医師クラーク室	医師	クラークの増員	診療録の代行入力ができるクラークの適正な人員配置。			B
医事課	医師・看護師	Iot（音声自動入力）・生成AIの導入	メーカーの説明会・デモなど実施。			C